

キラリと笑顔が輝くまち

# とばぐらしの魅力を再発見

企画財政課移住・定住係 ☎(25) 1227



市では、平成28年を「移住・定住元年」とし、都市部からの移住希望者を積極的に受け入れるため、切れ目のないきめ細やかな移住支援に取り組んでいます。

鳥羽へ移住してイキイキと生活している移住者のかたにスポットを当て、普段当たり前に感じている暮らしの中にある魅力を再発見したいと思います。

今回は、鳥羽市初の移住コーディネーターに就任した青木玲子さんに鳥羽での生活についてお話ししていただきます。

※移住コーディネーターは、市の移住・定住促進事業に関連し、移住希望者の相談対応や情報提供などさまざまな支援に取り組み、移住定住を促進します。



## 移住コーディネーター 青木玲子さん プロフィール

- ・東京都出身、二男二女の母
- ・小中学校の音楽教師や教育関係の仕事などを経て、人材紹介会社に勤務
- ・今年3月、高校生の娘2人・愛犬と鳥羽市へ移住
- ・鳥羽市初の移住コーディネーターに就任し、現在に至る

### 【鳥羽に移住するまでの生活は？】

大学卒業後、数年は東京都内小中学校の教師でした。出産後は稼業の経理を手伝い、6年ほど前に離婚してからは、子育てをしながらパートや会社員をしていました。

前職は人材紹介会社の子会社で、事業内容はシングルマザー向けの就業支援や相談などです。そこでは主に情報発信やイベントの運営を担当していました。また、個人的に細々と声楽や発声を教えることも続けていました。

### 【鳥羽で移住コーディネーターになったきっかけは？】

子どもを産んでからは自然が豊かな場所の暮らしにずっと憧れていました。

前職では地方創生にも携わっていたので、移住の情報が身近にあり、それが関心を持ったきっかけです。

移住イベントでブースを出

していた時に鳥羽市のかたと知り合って移住を意識するようになり、末の娘が高校生になることもあり、思い切って移住しました。

そして、移住後もカウンセリングのできる仕事を続けたいと思い、移住コーディネーターに応募しました。

### 【移住する前の鳥羽の印象は？】

実は、伊勢神宮や夫婦岩などを知っている程度でした。

移住イベントで鳥羽市の担当者にお会いして「海に面したまち」「女性を尊ぶまち」という明るく優しい印象にとっても魅力を感じました。鳥羽のイメージは、明るさ・華やかさの中に落ち着きがあり、人は穏やかで、おらかなのに細やかなたが多い。その印象は今も変わっていません。



### 【実際の鳥羽での暮らしは?】

住まいは安楽島地域で、大きなスーパーやホームセンターがあり、買い物など生活に困ることはありません。また、図書館や公園などの施設が整っているので、休日もゆとり過ぎせます。

最初は、電車やバスの便が少ないことなど移動手段に戸惑いましたが、もう慣れました。今では、むしろ時間に余裕をもって動くのは大切だと思っています。

東京では日常生活の中で大量供給・大量消費の型ができているように感じますが、鳥羽では必要最低限の暮らしで無駄がありません。浪費も減って助かります。ごみの出し方やリサイクルなどエコに配慮しているところにも共感しています。

### 【鳥羽で暮らす魅力は?】

広く高い空と澄んだ海の色が何よりの魅力です。人も優しくオープンな方が多く、分からないことをたくさん教えていただいています。

毎朝の通勤ラッシュから解放され、海を眺めながら新

鮮な気持ちで仕事に向かいます。

東京では、どこに行っても人混みを避けることができなかったりで、人口過密によるストレスがかなり大きかったことに改めて気付きました。

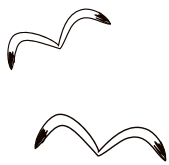
先日、娘たちと焼きガキを初めて食べて、みんな舌鼓を打ちました。地元では当たり前のカキもわたしたちにとっては貴重で本当においしかったです。

また、地元のかたに肉厚のハマグリを頂き、今まで食べたことのない大きさに驚きました。東京の知人も「東京ではとても手に入らない」と驚いていました。

ほかにも、都会にはない人とのつながりは魅力的です。

娘と神島を訪ねた時に出会ったかたが、歩いて島を一周するわたしたちに道順などを親切に教えてくれてとても感動しました。

鳥羽は生活に不便なく暮らすことができ、海が近いことはもちろん離島へ気軽にしかけて自然を満喫できる貴重な立地だと思います。



### 【移住コーディネーターとしてどんな活動をしていきたいか?】

まずは、鳥羽の魅力をさまざまな切り口で発信していきたいです。そして、移住を検討しているかたに「移住を通してどんな経験ができるか」を自分の体験を踏まえて伝えていきたいと思っています。

また、地域おこし協力隊が取り組む活動のお手伝いができたらと考えています。なかまち会の商店街ならではの地元発信力や、石鏡町の海女継承への取り組み、答志島での地域ぐるみの子育てや離島暮らし体験など、地域おこし協力隊のかたが地道に積み重ね

ていることを継続するのはとても大切なことです。

今後は、都心部と地方のそれぞれの問題を模索しつつ、相互効果のある交流方法を見つけていければ、「暮らし方改革」につながるのではないかと漠然と考えています。

とはいえ、今はまだ自分と子どもが鳥羽の生活に慣れ親しんでいくこと自体が仕事につながると思って日々の生活を送っています。

人とのつながり、感謝の気持ちを忘れずに少しずつ進んでいきたいと思っています。

### ●鳥羽市移住コーディネーターのブログ

青木さんがとばぐらしの魅力を発信しています。

<https://ameblo.jp/coordy-toba/>



### ●とばぐらしのフェイスブック

鳥羽市へ移住・定住するための情報満載のフェイスブックもご覧ください。

<https://www.facebook.com/tobagurashi/>

